

# 香川大学

## だから、 できるコト。

叶えたい夢、描いた未来。  
それを実現させるためにあるのが大学での4年間。  
多彩なプログラムや様々なサポート、香川ならではの環境  
香川大学には、ここならではの「溢れています」。  
今回は、目的や夢を抱いて香川大学へ入学し、  
ここでしかできないことを通じて、  
それぞれの未来へ向かう6つの学部の学生たちを紹介します。

## 憧れの「直島プロジェクト」 で得た、たくさんの学び

直島プロジェクトは今年で10年目を迎え、今では香川大学内外で多くの人に知っていただいている活動です。私たちが運営するカフェand cafe ぐは、基本的には学生だけで運営しています。もちろん多くの支援やサポートをいただいています。現金やシフトの管理はもちろん、店舗の修繕・内装から集客企画に至るまですべて学生が行っています。また、島民のみならず一緒に活性化対策を話し合い、島の活性化のために催すイベントなどにも参加するほか、様々な場所での活動内容の発表も行います。現在メンバーは65名。経済学部の学生を中心に、他学部からも参加して、夏前には1年生も新加入する予定です。私がこのプロジェクトの存在を知ったのは、高3時のオープンキャンパスです。学生主体でカフェ経営を

するという、大学生という枠には当てはまらない活動に魅力を感じ、どうしてもこの大学に入りたいたい！という思いで受験勉強に励みました。最初は「アートの島でのカフェ運営」ということへの憧れだけで飛び込んだ活動ですが、やってみると大変なことたくさんありました。でも大勢の前でのプロジェクト発表の機会や、企業や地域の方々との交流はこのプロジェクトに参加しなければ体験できないこと。一つひとつ大切に学んでいけたらと思っています。

直島プロジェクトをはじめ、学生のうちだからチャレンジできるのが経済学部にはたくさんあります。学生のうちに社会的な経験を積むことは、必ず将来何らかの役に立つはず。香川大学経済学部にはそれをサポートしてくれる環境があります。



経済学部 2年 植田さん

経済学部 3年 難波さん

(今回のリポーター) 経済学部 3年 三宅さん

### Pick Up!

#### 経済学部学生チャレンジプロジェクト

経済学部学生チャレンジプロジェクトは、学生の自主性・主体性・積極性を支援する学部独自の取り組みとして平成22年に誕生しました。毎年「こんな事をしたい!」という熱いプランが応募されます。応募内容は、地域活性化から学業振興まで多岐に渡り、平成25年には地域(県庁、市役所、県内の高校生など)と連携し地元プロサッカーチームの集客増を目指すイベント展開のプランが採択され、J2昇格への一助となりました。(写真はイベントで行われたフェイスペイントの一場面)自主的に動き、チャレンジする精神は社会人基礎力と言われる能力であり、経済学部には挑戦する学生を支える環境があります。



WebでCheck! →  
学生の声をお届け!



## CONTENTS

- 巻頭特集 『香川大学だからできること』
- 01 『憧れの「直島プロジェクト」で得た、たくさんの学び』 経済学部
  - 03 『リーガル・マインドで世界と繋がる』 法学部
  - 04 『地域の方々と共にアートをイベント活動で実践的に学ぶ』 教育学部
  - 05 『国際交流やボランティアで医療人になるための土台を築く』 医学部
  - 06 『希少糖はじめ、未来を拓くバイオサイエンスの世界』 農学部
  - 07 『危機的状況から人々を守りたい使命感を持って研究に取り組む日々』 工学部
  - 08 『香川大学独自の取り組み』

### 香川大学FACES

- 09 『気象は、地球をよりよく知る手がかりです』 教育学部 寺尾 徹 教授
- 11 『人間支援工学で機械をよき相棒に』 工学部 鈴木 桂輔 教授
- 13 『オリーブオイルが秘める健康機能を明らかに』 農学部 田村 啓敏 教授
- 15 『命のリレーはポジティブです』 医学部 佐々木 睦子 教授
- 17 『その買い物、自分を育てますか?』 経済学部 藤村 和宏 教授

- 19 教えて先生!時事問題に迫る 『18歳選挙権』 法学部 堤 英敬 教授

- 20 サークル紹介 香川大学サイクリング部

- 21 Message from OB すべての鍵は「絆」にあり 牛窓ヨットクラブ会長 川上 一憲 氏

### メルマガ登録のご案内

香川大学広報室では月に1度メールマガジンを配信しています。各学部教員による『カダイ・ラボ』や学生によるレポートなど楽しいコンテンツが盛りだくさんです。ぜひご登録下さい。

詳しくは『香川大学メールマガジン』で検索  
アドレスはこちら  
<http://www.kagawa-u.ac.jp/admission/mailmagazine/>

## リーガル・マインドで 世界と繋がる

法学部の勉強というと六法全書や難しい条文を覚える印象が強い。法律以外にどのような勉強をするのか解らないという人も多いのではないだろうか。

香川大学法学部では、法的根拠に基づいて社会ではどのようなことが行われているのかを実践的に学ぶ、様々なフィールドワークを行っています。私が所属するゼミでは、裁判の傍聴のほか、刑務所や鑑別所、少年院などの施設見学を行い、どう感じたかをレポートし、先生からのアドバイスをいただいています。教科書や法律書に書かれていることをただ覚えるのではなく、実際に法がどのように運用されているかを見て、言葉にすることで、法律が身近になり、理解が深まっていくのを感じます。

このような活動を積極的に行うことができるのは、1年から4年までを通して、ゼミを中心とした少人数教育が中心だから。同学年のゼミ生が5、10人と少人数なので実践的な活動を行っているのも法学部の魅力です。



法学部 4年  
日下さん

家庭裁判所  
簡易裁判所

WebでCheck!  
学生の声をお届け!



### Pick Up!

1年次からスタートする少人数ゼミの魅力

香川大学法学部は、1年次からゼミがスタートします。1年次には、専門分野の導入となる基礎について学ぶための大学入門ゼミ、基礎ゼミが用意されています。2年次に属する「プロゼミ」では、それぞれが興味を持つテーマについて学んでいきます。その後、3・4年次に専攻科目をより深く追求するゼミへと進みます。これらはすべて少人数で行われており、入学当初からきめ細やかな指導を可能に。教員が学生一人ひとりにしっかりと向き合い、双方向で学べるのが少人数教育の魅力。教員と学生の距離が近いので、進路に対する相談などもしやすい環境です。



## 地域の方々と共に行う アートイベント活動で 実践的に学ぶ

香川大学教育学部では2年次から、教科ごとの専門性を高めるため、さまざまな領域に分かれてその分野の基礎から実践的内容まで学ぶことができます。

私たち美術領域では、活動の一つとして学外のアートイベントに参加しています。6月に行ったのは、国営讃岐まんのう公園「あじさいまつり」内のアートパワフルづくりのワークショップ。公園を訪れた人たちに透明傘に自由にペイントしてもらい、園内に飾ると同時に、パワフルであじさい型オブジェも制作するなどし、アートを身近に感じてもらいました。

昨年行われた「山なみ芸術祭」では、作品展示のほかにカフェ運営も行い、ボランティアガイドとしても参加しました。また丸亀・秋賀の館での作品展示や四国霊場七十六番札所である金倉寺のお祭りでの子ども陶芸教室など、年間を通じて月一回のペースでアートイベントに参加しています。これらのアートイベントに

共通するのは、単なるスタッフとして関わるといってではなく、運営サイドとしても活躍できるということ。学生が「自分たちで考え、動くことを大切にしてくれ、サポートしてくださる先生方のおかげで、さまざまな活動が可能。作家活動をしながら事前準備や当日の運営も行うので大変ですが、子どもたちや地域の方々と関わるなかでコミュニケーション力や運営する力が身につく素晴らしい機会だと思えます。

香川大学では教育と専門分野の両方が学べるので、将来どの方向に進んでも実践的な活動を通じて視野を広げた経験が役立ちます。入学前にその分野の専門的な勉強をしていなくても、一から学べるというのも、教育学部である強みです。来年度の「山なみ芸術祭」の実施も既に決定しています。これからもみんなで楽しみながら、美術の楽しさを伝え、美術が好きになつてもらえる活動に取り組んでいきます。



大学院2年  
岡田さん

大学院1年  
矢野さん

大学院1年  
西原さん

教育学部2年  
佐藤さん

教育学部1年  
河西さん

WebでCheck!  
学生の声をお届け!



### Pick Up!

明日の教員を育てるプログラム

香川大学教育学部では、地域の児童や生徒と関わるプロジェクトが多く存在します。その一つに毎年1,000人以上の親子が参加する人気イベント「未来からの留学生」があります。子ども向けの企画は、学生が主体となってアイデアを出し合い、試行錯誤しながら教材を揃えて準備します。子どもたちと一緒に遊び学ぶことで、将来の自分の理想とする教員像を思い描くことが出来ます。また、「香川大学教育学部附属教職支援開発センター」を設置し、学部・附属学校園、香川県教育委員会と連携・協働して学生が教員となるための実践的な支援体制も整っています。



# 国際交流やボランティアで 医療人になるための土台を築く

医学部は、国際交流が活発です。留学制度が充実しており、私たちもそれぞれブルネイダルサラーム大学、チェンマイ大学への短期留学を経験しています。ここまで広く留学の機会があるのは香川大学ならでは。現地での実習などを通じ海外の医療を知ることができのほもちろん、異文化を学ぶこともできる貴重な機会です。医学科では6年次にイギリス留学の道も開けています。これは日本全国から毎年数名のみ参加できるプログラムですが、香川大学は特別枠として数名の人数枠が認められています。このように世界最先端の医学・医療を学べるチャンスが特別にあるというのは医学科の学生にとって大きな魅力です。一方で、アジアをはじめとする世界各国からの留学生受け入れも多いため、さまざまな国の学生と交流し刺激を受けることもできるのも特長です。授業や実習と一緒に参加する以外に、留学生に日本文化を伝える交流イベントや合同の勉強会などを学生主体で企画して交流す

ることで、お互いの理解が深まる。と同時に英語力も身に付きます。また、医学科と看護学科のキャンパスが同じなので、小児ボランティア活動には合同で参加しています。附属病院の小児病棟でのボランティアや障害を持つ子どもや家族をサポート、思春期の子どもたちのカウンセリングなど、さまざまな悩みを抱える子どもたちや保護者と直接ふれあう時間は、子どもたちを救いたい、という気持ちを忘れないための大切な時間となっています。

香川大学医学部には学生のやりたいという気持ちをサポートしてくださる先生方が多く、積極的に学べる環境があります。私たち全員が実感しているのは、入学してからの充実度の高さ。国内外においてさまざまな学びを得る経験は、将来、医療人として生きる際に、大きなアドバンテージになると思います。



医学部  
看護学科 3年  
中津さん

医学部  
医学科 3年  
岡田さん

医学部  
看護学科 4年  
森さん

WebでCheck! →  
学生のお届け!



**Pick Up!**  
学びを支える学習環境

医師や看護職にふさわしい教養、技術、心を持った人間を育てるための環境が香川大学医学部には整っています。充実したカリキュラムはもちろん、最新鋭のシミュレーション機材が設置された学習室や、図書館や自習室などを学生は自由に利用することができ、夜遅くまで自習やグループ討議が行われています。また、附属病院が隣接しているのも大きな特徴です。学生は、解らないことがあればすぐに先生や先輩に質問することもできます。時には学生達の要望に応え、講義がはじまることも。医療人を目指す学生の意志を伸ばし、支える環境がココにはあります。



# 希少糖はじめ、未来を拓く バイオサイエンスの世界

農学部では、世界的に知られるようになった希少糖についての最先端の研究が行われています。現在のように希少糖研究が進むまでは、希少糖は大変貴重で高価なものでした。

自然界に多量に存在する単糖から希少糖を生産できるようになったことは、世界的に大きな発見。そんな研究が香川大学で行われている。それは当時、高校生だった私にとって大変インパクトのあるものでした。

現在、農学部のキャンパス内には、希少糖の生産に関する研究を行う希少糖生産ステーションがあります。また、研究の成果を事業化に連結するプロジェクトも産学官連携が進んでいます。世界から注目されている最先端の研究を間近に見ることができの、学生にとってかけがえのない学びです。また各国からの留学生との国際交流や豊富な

留学プログラムを活用して、国際的な視野を広げることができるのも魅力です。私もインドネシアとタイへ訪れたことで視野が広がったと実感しています。

私は、オープンキャンパスで微生物の世界に興味を持ち、農学部への進学を決めました。入学後さまざまな授業を通じ、2年後期のコース選択では応用生命科学コースを選択しました。現在は、酒やパンなどさまざまな食物に影響する酵母の生産効率を高めるための研究を行っています。農学部には希少糖をはじめとして、様々なバイオサイエンスの世界が広がっています。そして興味を持った分野に進もうとする学生を支えてくれる環境があります。面白いと感じたことに一心に取り組める環境のなかで、第二の希少糖となるような研究が出来ればと思っています。



農学部 4年  
橋井さん

WebでCheck! →  
学生のお届け!



**Pick Up!**  
国際色豊かなキャンパス

農学部三木町キャンパスは国際色豊かなキャンパスです。現在、50名近くの留学生が勉学や研究に動んでいます。アジアをはじめアフリカやヨーロッパ等、世界中の国々から学生を受け入れており、特にタイ王国チェンマイ大学とは農学部がきっかけで交流が始まった事もあり、留学生の受け入れと共に農学部からも多くの学生が留学をしています。農学部では、留学のために必要な語学のスキルアップを図る為のプログラムも準備され、英語を母国語とする教員が活躍しています。外国の学生と共に学び、生活をする環境はグローバル化が進む世界の中で活躍する人材を育てます。



# 危機的状況から人々を守りたい 使命感を持って研究に取り組む日々

香川大学工学部の敷地内に、地震や津波などの自然災害やテロ、事故、犯罪などの人為災害からヒトや地域を守るための研究を行う「危機管理研究センター」があるのを存じてでしょうか。このセンターでは8つの研究プロジェクトを実施しています。私たちの研究室では、その一つである防災教育・訓練に関する研究を行っています。

東日本震災の教訓の一つに、想定を超える事態への対応能力の向上があります。この能力を訓練する目的で開発されたのが「災害状況再現・対応能力訓練システム」です。通常の災害対応訓練では、被災状況や避難シナリオが事前に知らされており、想定外の事態への対応力が身につきません。しかし、想定を超える被災体験は簡単にできません。または人は危険を感じると極限状態に陥り、冷静な判断や行動が難しいといわれています。そこでこの訓練システムでは、3次元バーチャリアリティ技術

を駆使して危機的状況を音声と映像で再現し、被災の疑似体験を通して、冷静な判断や行動の難しさを感じてもらいます。今私たちが力を入れているのは、被験者の状況判断で多様に変化する訓練ストーリーを効果的に再現する仕組みです。様々な状況を想定していくつもシーンを作っている最中です。

このような災害対応訓練システムの開発は先進的な取組で、全国から体験希望が寄せられています。しかし今は、香川大学工学部のみでしか体験ができません。今後は、遠隔地での体験が可能ないようにシステムの機能拡張、体験者の意見を取り入れた機能改善を進めたいと考えています。南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生が危惧されています。私たちの研究によって一人でも多くの人たちの命を救うことができれば、という気持ちで日々研究に取り組んでいます。使命感を持って取り組める研究ができること、それが私たち全員の誇りです。



工学部 大学院1年 岡田さん

工学部 4年 森さん

工学部 4年 竹内さん

WebでCheck!  
学生の声をお届け!

## Pick Up! 充実した設備と実験環境

香川大学工学部は、学内にWi-Fiが完備され、CAD等のソフトが無料で使用できる等の学習環境が整っています。研究面では、貴重な機械から最先端の実験装置まで他の大学にはない機械が沢山揃っています。その一つとしてナノテクノロジー研究設備があります。ここでは、四国で唯一のナノテクノロジー研究支援機関として、学内だけでなく研究機関や企業と共に世界競争の一角を担った研究が行われています。その他に国内に数台しかない電子顕微鏡等、学生が研究するに充分な設備環境が整っています。



# ほかにもあります。香川大学だからできるコト。



## ネクストプログラム

学部の枠を超えて、主体的に学習する自由参加型の特別教育プログラムです。現代社会が求める人材を育成することを目指しています。語学力向上を目指す「グローバル人材育成プログラム」、防災士資格を取得し、地域や職場等の防災に貢献する「防災士養成プログラム」、文学作品を読むことでより豊かな人材の育成を目指す「人間探究プログラム」の3つのコースがあり、香川大学生なら誰でも参加できます。



## 瀬戸内地域活性化プロジェクト

平成25年度に国からの「COC 地(知)の拠点整備事業」採択を受け、新設された全学共通科目です。県内の自治体と連携し、フィールドワークを主体とした授業を行っています。授業では、学生が実際に対象地域に赴き、定住促進や観光振興、離島振興など自治体が抱える様々な課題に対して、学生目線で問題解決策を探ります。本年度も複数のプロジェクトが進行しています。

## 学生支援プロジェクト事業「香大生の夢チャレンジプロジェクト」



かがわぬいぐるみ病院プロジェクト

香川を伝える～University radio project～

「大学生になったら地域に役立つ活動をしたい!」「もっと大学を活性化したい」といった香大生の自主性と積極性をサポートするために平成18年度より新たな取り組みとして始まった「香大生の夢チャレンジプロジェクト」。毎年たくさんのプランがエントリーされています。エントリーされるプランは、学生生活の活性化を図るものから大学教育を充実させるものまで多種多様。学生達は自ら企画・立案した独創的なプランを練り上げ、エントリーします。正式に採択されると、プラン内容に合わせてプロジェクト費が支給され、活動費として使用しながら1年間を通して取り組んでいきます。平成27年度も13プランが採択され、活動を行っています。

## 充実した海外留学サポート



帰国留学報告会



チェンマイ大学(タイ王国)・香川大学 短期交換プログラム

香川大学では、平成27年5月1日現在、21カ国・地域78大学・機関と「大学間協定」や「部局間協定」を結び、これら協定校を中心に国際交流を推進しており、平成26年度には協定校へ178人が派遣交換留学しています。協定校への留学の場合、受入校への授業料は原則として不要です。他にも、香川大学ネクストプログラム・グローバル人材育成プログラム、2週間から5週間程度の短期語学研修、インターンシップなどの様々な海外留学プログラムを用意し留学しやすい環境が整っています。

留学先や時期、応募資格等については、インターナショナルオフィスの専任教員が相談窓口にあっているため、容易に目的に合った海外留学を見つけることが可能です。また、留学前の危機管理セミナーの実施や、一部派遣留学生には大学独自に給付型奨学金を支給するなど、様々な形で海外留学を支援しています。

文部科学省が中心となり、グローバル人材育成を官民協働で進める「トビタテ!留学Japan日本代表プログラム」には、これまでに4人の学生が採択されました。さらに同プログラムに対し、香川大学が中心となり申請した「香川地域活性化グローバル人材育成プログラム」が、全国11地域のひとつとして採択されました。これは、香川県内の大学等に在籍し、香川県内の企業に就職を希望する学生の海外留学及びインターンを支援するもので、留学に当たって給付型奨学金が支給されます。

独立行政法人国際協力機構(JICA)と連携しているのも本学の特徴の一つで、在学中から国際貢献プログラムに参加している学生もいます。